

デンタルスタッフ・ミライ・プロジェクト ニュース vol.97

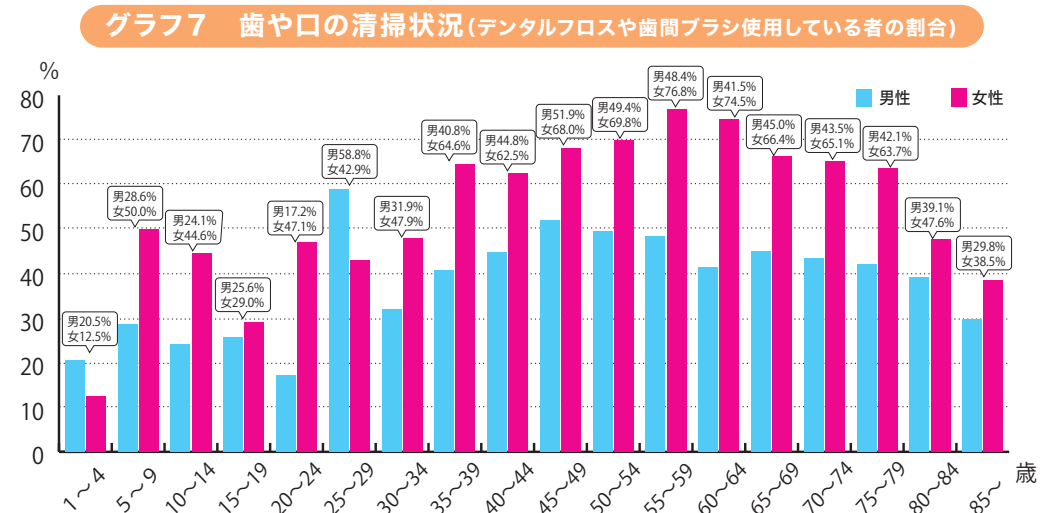
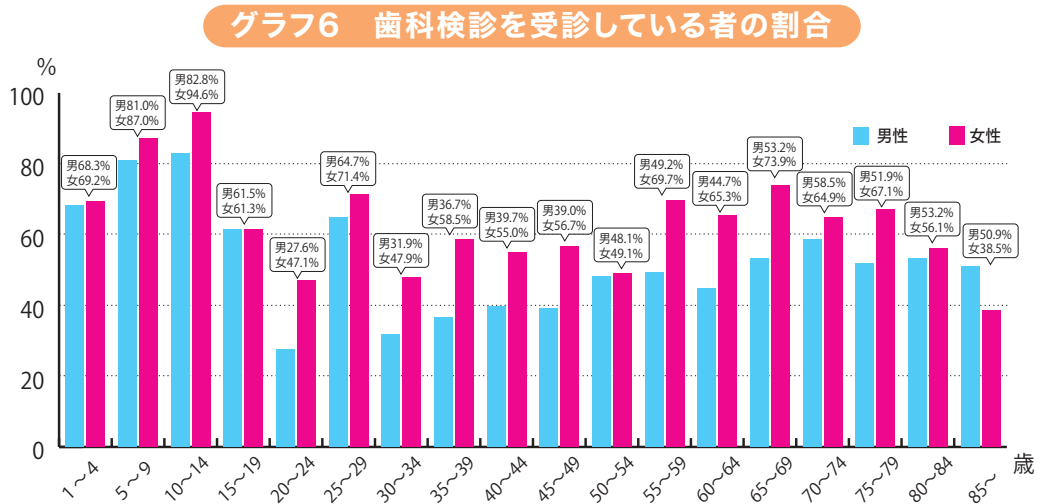
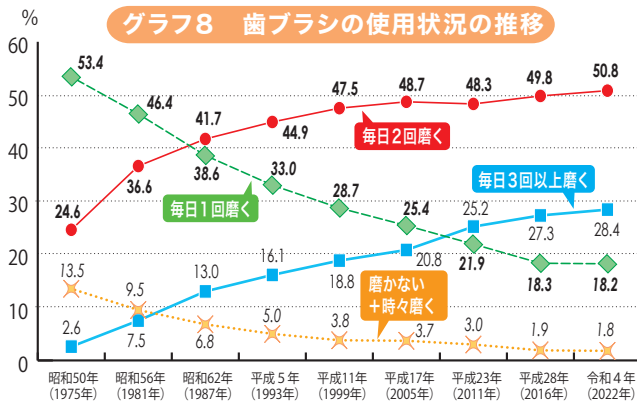
厚生労働省調査に見る 歯科保健医療の推移と成果③ (令和4年歯科疾患実態調査)

「令和4年歯科疾患実態調査」より、歯科検診の状況と歯や口の清掃状況をご紹介します。

①男女とも中学生頃までは高い受診率にある
歯科検診を受診している者の割合は全体で58%で、男性では30~50歳未満の年齢階級にて低い傾向にあり、全体的に女性が高い傾向を示している。

②歯の清掃状況は女性が高い傾向にある
歯や口の清掃状況はデンタルフロスや歯間ブラシを用いた歯間部清掃を行なっている者は全体で50.9%で、全体的に女性が高い傾向を示している。

③毎日歯を磨く者の割合は97.4%、毎日2回以上歯を磨く者の割合は79.2%



DH Pro.セミナー講師 高原 千尋先生による コラムのコーナー

習癖をコントロールする

スタンダードコースの受講生から臨床現場で普段疑問に思っている質問を頂きましたので、その中の一つを皆様と共有し紹介させていただきます。少しでも参考にして頂けたらと思います。

Question

食いしんぼり等の習癖を治すにはどのように指導したらいいですか？

Answer

指導方法は、習癖の頻度や患者様の生活背景によって異なりますが、大切なのは「治す」ことを目的とするのではなく「コントロール」することではないかと思います。

そこで、第1ステップとして普段の習癖と歯並びが関係していることを知っていただくこと(動機づけと学習)が大切です。そして、ご自身の習癖を認識していただき、日常生活の中で意識していただくことで改善できるように4つのステップを踏んで「習癖をコントロール」していく方法をセミナーではお伝えしています。

小児に比べて成人、特に高齢の方への習癖のコントロールは、期間や年齢的に適応能力が低いことから、習癖をコントロールすることは大変難しいことです。しかし、患者

さんに寄り添って取り組むことができるのは私たち歯科衛生士です。改善が実感されたとき、きっと患者さんと一緒に大きなやりがいを感じることでしょう。ぜひ、一緒に頑張りましょう。

